

原 著

# 新型コロナウイルス感染症流行下における 母性看護オンライン訪問実習の効果検証 —オンライン相談支援実用化の可能性と課題—

藤本紗央里, 川崎 裕美, 村上 真理, 上野 陽子

広島大学大学院医系科学研究科

(2022年9月29日受付)

**要旨:**【目的】本研究の目的は、母性看護オンライン訪問実習の学修効果を検討することによって、オンラインを活用した母子保健における相談支援の可能性と課題を探索することである。【方法】オンライン訪問実習は、2020年6月に4年次学生9名が実施した。学生3人を1グループとし、グループ単位で1名の対象者を受け持った。対象者は、助産師である母親3人であった。分析対象は、研究協力を承諾した学生9名の自己評価得点と学びとした。評価内容は12項目作成し、評価は4「少しの助言があれば自立してできる」から1「助言・指導があってもできない」の4段階評価とした。自己評価得点は基本統計量を算出し、学びは質的記述的に分析した。【結果】自己評価得点が最も高かった項目と平均値(SD)は、対象者の尊厳と権利の擁護:3.89(0.31)と対象者との信頼関係の形成に必要なコミュニケーションの展開:3.89(0.31)であった。学生の学びは、12のカテゴリーが抽出された。【結論】エンパワメントのために必要な看護実践、効果的な看護実践の方略の考察については、高い学修効果が得られたが、必要な看護を多角的に捉えることについては、学修効果を上げるための実習方法改善の必要性が示唆された。また、オンラインの活用により、タイムリーな指導や支援において有効であることが示唆された。一方で、オンライン訪問における対象者との信頼関係形成に必要なコミュニケーションの展開については、事前のトレーニングの必要性が示唆された。

(日職災医誌, 71:55—60, 2023)

## —キーワード—

オンライン訪問実習, オンライン相談支援, 新型コロナウイルス感染症

## 1. 緒 言

新型コロナウイルス感染症が拡大する中、多くの看護系大学では学生の学修機会<sup>1)</sup>を確保するため、臨地実習代替の取り組みを余儀なくされ、本学では乳幼児を育てる母親を対象としたオンライン訪問実習を試みた。新型コロナウイルス感染症流行下において、臨地実習の代替措置は97%の大学で実施されており、その手段はオンライン(遠隔かつ双方向性)が89%と多くの大学で採用された<sup>2)</sup>。

オンライン実習の内容として、対象者への看護実践<sup>3)</sup>、模擬患者への看護実践<sup>4)~7)</sup>、看護師の実践の見学<sup>8)</sup>などの取り組みが報告されている。看護基礎教育においては、情報通信技術を活用するための基礎的能力を養うことが重要であることが示されており<sup>9)</sup>、今後の看護師に必須のスキルであると考えられる。特に、母性看護学実習は、

少子化や産科医療施設の減少により、実習施設の確保が困難となり、学生の実習経験内容に格差が生じていること<sup>9)</sup>を考慮すると、新型コロナウイルス感染症の終息後も、オンライン実習を活用し続ける価値があると考えられた。

また、厚生労働省の2024年度からの第8次医療計画では、更なる分娩施設の集約化・重点化が進み、産科医療アクセスの地域差の増大が予測される<sup>10)</sup>ことや、妊娠・育児中の母親の身体的負担や新生児や乳児と共に外出することの負担を考慮すると、安心して子どもを産み育てられる環境整備の一つの方法として、母子保健におけるオンライン相談支援の需要拡大が見込まれると考える。

## 2. 目 的

本研究では、乳幼児を育てる母親を対象としたオンライン訪問実習の学修効果を検討することによって、オン

ラインを活用した母子保健における相談支援の可能性と課題を探索することとした。

### 3. 方 法

#### 1) 実習の概要

総合実習において、乳幼児を育てる母親を対象としたオンライン訪問実習を2020年6月に実施した。学修目標は「育成期にある子どもと家族に必要な看護を多角的に捉え、対象者のエンパワメントのために必要な看護実践ができる」と「今後の看護の質向上に向けて効果的な看護実践を行うための方略を考察できる」である。

オンライン訪問実習を実施した4年次学生9人は、3年次までの臨地実習を病院等で対面実習した学生であった。対象者は、過去に本学の演習で模擬患者として協力した経験を有する候補者から、現在乳幼児期の子どもを育てており、本実習の主旨に賛同し協力が得られた助産師3人であった。

学生は、3人1グループとし、グループ単位で1名の対象者を受け持った。実習初日から3日目に対象者の基礎情報から健康教育計画や教材を立案し、学生と教員間でオンラインでのロールプレイを行い計画や教材を修正した。実習4日目に対象者へのオンライン訪問を30分程度実施し、実施後には教員と対象者からフィードバックを得た。なお、対象者には、母親と助産師それぞれの立場からのフィードバックを依頼した。その後、学生は、オンライン訪問を録画したものを視聴し振り返り、評価表を用いて実習の自己評価を行った。

評価表の評価内容は、看護学士課程教育におけるコアコンピテンシーと卒業時到達目標<sup>1)</sup>をもとに次の12項目を作成した。①対象者の成長発達に応じた変化をとらえ包括的に健康状態をアセスメントできる、②対象者の生活を把握し健康状態との関連をアセスメントできる、③地域の特性や社会資源を把握し健康状態との関連をアセスメントできる、のアセスメント3項目、④根拠に基づいた看護を提供するための理論的知識や先行研究の成果を探索・活用し看護計画を立案できる、⑤批判的思考や分析的方法を活用して看護計画を立案できる、の計画立案2項目、⑥対象者の尊厳と権利を擁護することができる、の倫理的配慮1項目、⑦対象者に合わせた個別的な看護計画を実施することができる、⑧対象者の健康の保持増進のために必要な看護計画を実施できる、⑨実施する看護の根拠と方法について対象者に合わせた説明ができる、⑩対象者との信頼関係の形成に必要なコミュニケーションを展開できる、⑪対象者の意思決定を支援することができる、の実施5項目、⑫実施した看護実践を評価し計画を修正できる、の評価1項目、⑬自己の看護実践を振り返り自己の課題に取り組むことができる、の自己研鑽1項目とした。

評価は看護師等養成所の運営に関する指導ガイドライ

ンの卒業時の到達目標と到達度<sup>12)</sup>をもとに、4：少しの助言があれば自立してできる、3：助言・指導があればできる、2：助言・指導があっても一部しかできない、1：助言・指導があってもできない、の4段階とし、本実習で到達すべきレベルを3以上とした。また、学生の気づきや感想を書くため、自由記述欄を設けた。

#### 2) 分析対象

分析対象は、記録物(動画)と評価表(自己評価得点、気づきや感想)とした。

#### 3) 分析方法

(1) オンライン訪問実習の自己評価得点

学生の自己評価得点を集計し、平均と標準偏差を算出した。

(2) オンライン訪問実習の記録物(動画)と評価表(気づきや感想)

データは質的記述的に分析した。記録物と評価表から逐語録を作成し、学生の学びに関する内容を抽出し、コードを生成した。次にコードを内容の類似性や相違性に基づいて分類し、サブカテゴリー、カテゴリーを生成した。分析の信用可能性を確保するために、主観的解釈や、解釈の偏りや矛盾がないかを、質的研究および母性看護学、地域看護学を専門とする研究者で、解釈が一致するまで分析を繰り返した。

#### 4) 倫理的配慮

本研究は広島大学疫学研究倫理審査委員会の承認を得て実施した(第E-2145号)。

実習の評価終了後に、学生に記録物や評価表を研究に二次利用することを文書で説明し、承諾を得た。依頼書には、研究の意義、目的、方法、保存期間、協力への任意性と拒否権、研究に協力しない場合でも単位認定や成績評価などの不利益はないこと、研究結果は匿名化の後に公表され個人は特定されないこと、を記載した。

## 4. 結 果

#### 1) オンライン訪問実習の実習目標到達状況

オンライン訪問実習の自己評価得点を表1に示す。上位3項目は、倫理的配慮1項目(6)、実施3項目(7・8・10)、評価1項目(12)、自己研鑽1項目(13)であった。アセスメント3項目の平均値(SD)は3.26(0.70)、計画立案2項目は3.11(0.49)、実施5項目は3.56(0.54)であった。

#### 2) オンライン訪問実習を実施した学生の学び

オンライン訪問実習を実施した学生の学びを表2に示す。以下、抽出されたカテゴリーを【 】、サブカテゴリーを「 」、コードを< >で示す。

アセスメントの【対象者のリアルな生活を知り、対象理解が深まった】には、<子育て中の方と関わる機会がなかなかないので貴重な経験となった><子育ての大変さ、対象者の頑張りを知り、素晴らしいと思った>が含

表1 オンライン訪問実習の自己評価得点

評価内容	Mean ± SD
1. 対象者の成長発達に応じた変化をとらえ、包括的に健康状態をアセスメントできたか	3.33 ± 0.47
2. 対象者の生活を把握し、健康状態との関連をアセスメントできたか	3.44 ± 0.50
3. 地域の特性や社会資源を把握し、健康状態との関連をアセスメントできたか	3.00 ± 0.94
4. 根拠に基づいた看護を提供するための理論的知識や先行研究の成果を探索・活用し、看護計画を立案できたか	3.33 ± 0.47
5. 批判的思考や分析的方法を活用して、看護計画を立案できたか	2.89 ± 0.31
6. 対象者の尊厳と権利を擁護することができたか	3.89 ± 0.31
7. 対象者に合わせた個別的な看護計画を実施することができたか	3.78 ± 0.42
8. 対象者の健康の保持増進のために必要な看護計画を実施できたか	3.56 ± 0.50
9. 実施する看護の根拠と方法について、対象者に合わせた説明ができたか	3.44 ± 0.50
10. 対象者との信頼関係の形成に必要なコミュニケーションを展開できたか	3.89 ± 0.31
11. 対象者の意思決定を支援することができたか	3.11 ± 0.57
12. 実施した看護実践を評価し、計画を修正できたか	3.56 ± 0.50
13. 自己の看護実践を振り返り、自己の課題に取り組むことができたか	3.78 ± 0.42

まれた。

計画立案の【対象者の生活や環境を考慮した計画立案の重要性を学んだ】には、＜対象者の生活や環境を考慮した計画を個別性がありよかったと評価され嬉しかった＞＜生活や環境は1人1人違うことを考慮して計画を立案できるようになりたい＞が含まれた。

倫理的配慮の【対象者との関わり方を学ぶ】には、＜事前の準備によって、対象者との関わり方について考えることができた＞が含まれた。

実施は6つのカテゴリーで構成された。【個別性のあるケアの重要性を学ぶ】には＜対象者の性格や価値観を知り、対象者にあわせたケアを実施していきたい＞が含まれた。【対象者が情報を選択できることの重要性を学ぶ】には＜対象者のフィードバックから、対象者が情報を取捨選択できるように情報提供することが重要だと改めて感じた＞が含まれた。【根拠や明確な目的を持った情報提供の必要性を学んだ】には＜助産師の言葉や態度が対象者に大きな影響を与えるため、根拠や明確な目的を持った情報提供が必要だと感じた＞が含まれた。【受容・傾聴・共感的理解の重要性を学ぶ】には＜共感的態度が、子育て中の母親にとってどれほど必要かを感じた＞が含まれた。【オンライン訪問でも相互に関係を形成できる】には＜地域（遠方）の情報を調べたことで、身近に感じてよかったと評価され、オンラインでの「寄り添う」を実現できてよかった＞＜対象者のフィードバックから、オンラインでも言葉や態度によって、対象者が安心できる環境を作れることに気づいた＞が含まれた。また学生は、「オンラインを活用した実践の可能性に気づく」「緊張したが楽しい時間だった」のような【オンライン訪問の難しさや緊張感を感じる一方で楽しさや充実感を得る】経験をしていた。

評価は2つのカテゴリーで構成された。【対象者のニーズに沿った情報提供の重要性を学ぶ】には＜すぐに十分な返答ができなくても、対象者の求める対応を考えなが

ら話を聞くとよいことを学んだ＞が含まれた。【状況に応じて計画をタイムリーに評価・修正する重要性を学ぶ】には＜事前に立案した計画を、対象者と関わりながら随時追加する必要性を実感した＞＜限られた時間の中、優先順位を立ててケアを行う難しさを知った＞が含まれた。

自己研鑽は1つのカテゴリーで構成され、【母親・助産師である対象者のフィードバックが今後のモチベーション向上につながる】経験をしていた。

## 5. 考 察

今回のオンライン訪問実習で学生の自己評価が最も高かったのは、対象者の尊厳と権利の擁護、信頼関係形成に必要なコミュニケーションの展開であり、学修目標の「対象者のエンパワメントのために必要な看護実践ができる」については、エンパワメントの最初の手順である受容と信頼、そして仲間として受け止めることにより共感を生む素地を作る<sup>13)</sup>、は達成できたと考える。その要因として、まず学生のレディネスがあげられる。学生は臨地で対象者に看護ケアを実践した経験があり、オンラインでのコミュニケーションは初めてであったが、【オンライン訪問の難しさや緊張感を感じる一方で楽しさや充実感を得る】ことができており、【受容・傾聴・共感的理解の重要性を学ぶ】経験を通して、【オンライン訪問でも相互に関係を形成できる】ことに気づき実践できていた。オンラインでの言語的、非言語的コミュニケーションは、対面に比べて情報伝達が難しい点があり、実際の情報伝達度について常に確認すべきである<sup>14)</sup>、と言われている。今回は、訪問前に繰り返しオンラインでのロールプレイを実施し、対象者とのオンラインでの適切な関わり方について確認・検討したことが、オンライン訪問であっても信頼関係形成に必要なコミュニケーションを展開することにつながったと考える。また、今回はグループで1人の対象者を受け持つことで、他の学生との検討を通し

表2 オンライン訪問実習を実施した学生の学び

評価項目	カテゴリー	サブカテゴリー
アセスメント	対象者のリアルな生活を知り対象理解が深まる	実際のリアルな生活を知り大きな学びを得る
		母親の大変さや頑張りを知り、素晴らしいと思う
計画立案	対象者の生活や環境を考慮した計画立案の重要性を学ぶ	生活や環境を考慮した個別性のある計画だと評価され嬉しい
		生活や環境を考慮した計画立案の重要性に気づく
倫理的配慮	対象者との関わり方について学ぶ	事前に看護展開を繰り返し行い、対象者との適切な関わり方を考える
		母親への接し方、子どもが同席する上での配慮を学ぶ
		他の学生が説明中の自分の態度が対象者に与える影響に気づき、実践できた
実施	個別性のあるケアの重要性を学ぶ	個別性のあるケアの重要性を改めて強く感じる
		個別性のあるケアを今後実践していきたい
	対象者が情報を選択できることの重要性を学ぶ	情報提供前に自分で実践することの重要性に気づく
		対象者が情報を取捨選択できることの重要性に改めて気づく
		対象者に合わせた説明方法の重要性を学ぶ
	根拠や明確な目的を持った情報提供の必要性を学ぶ	根拠や明確な目的を持った情報提供の必要性に気づく
		参考となる情報提供の方法を学ぶ
	受容・傾聴・共感的理解の重要性を学ぶ	育児中の母親に共感的態度で接することの必要性に気づく
		共感や称賛の重要性に改めて気づく
		寄り添いや傾聴の重要性に気づく
	オンライン訪問でも相互に関係を形成できる	否定せず受け入れてくれたと評価され嬉しい
		オンラインでの寄り添うを実現できたと評価されてよかった
		オンラインでも対象者が安心できる環境を作れることに気づく
		対象者の喜びや楽しさが実感できてよかった
	オンライン訪問の難しさや緊張感を感じる一方で楽しさや充実感を得る	パソコン操作に不慣れで不手際があり申し訳ない
		難しさを感じたがやってよかった
オンラインを活用した実践の可能性に気づく		
緊張したが楽しい時間だった		
		オンライン訪問の機会に感謝する
評価	対象者のニーズに沿った情報提供の重要性を学ぶ	一部、対象者のニーズにその場で対応できなかった
		対象者のニーズにその場で対応できなくても、その後に対応する大切さやその方法を学ぶ
		訪問後に、対象者のニーズに合ったパンフレットを提供できてよかった
	状況に応じて計画をタイムリーに評価・修正する重要性を学ぶ	臨機応変な対応が求められることに気づく
対象者と関わりながら、計画を随時追加する必要性に気づく		
優先順位を立てケアを行う難しさに気づく		
自己研鑽	母親であり助産師である対象者のフィードバックが今後の実習や実践へのモチベーション向上につながる	母親と助産師、両方の立場でのフィードバックで大きな学びを得る
		今後の実習や卒後の実践に活かして頑張りたい

て【対象者との関わり方を学ぶ】経験をしていた。グループワークを活用したオンライン実習でも同様に、学生は自分の傾向を知りながら、自分の考えを深める体験ができたことがよかった<sup>3)</sup>、と述べており、自己の傾向やコミュニケーションのあり方について、多くの視点から検討し、より良い援助的関係の形成について模索できたことも要因の1つと考える。

2番目に自己評価が高かったのは、自己の看護実践を振り返り自己の課題に取り組む、であり、学修目標の「今後の看護の質向上に向けて効果的な看護実践を行うための方略を考察できる」を達成できたと考える。学生は対

象者からのフィードバックによって【個別性のあるケアの重要性を学ぶ】こと、【対象者が情報を選択できることの重要性を学ぶ】ことや、【根拠や明確な目的を持った情報提供の必要性を学ぶ】経験をしており、エンパワメントの次の手順である十分な情報収集をして、当事者が主体的に選択する<sup>19)</sup>ことの重要性に気づけていた。劇団員模擬患者を活用したオンライン実習においても、学生は模擬患者からのフィードバックによりコミュニケーションに関する学びの達成感を得ていた<sup>7)</sup>ことから、対象者からのフィードバックが、自己の課題の明確化につながったと考える。加えて、今回は対象者が助産師であり、

ロールモデルとしての役割も担うことができた結果、学生は【母親・助産師である対象者のフィードバックが今後のモチベーション向上につながる】経験をしており、専門職としての責務やケア向上に努める重要性の実感につながったと考える。

自己評価が最も低かったのは、批判的思考や分析的方法を活用した看護計画の立案であったが、包括的な健康状態のアセスメントなど、アセスメント3項目の自己評価は3点以上であった。【対象者の生活や環境を考慮した計画立案の重要性を学ぶ】経験の中で、対象者の個別性に応じた適切な課題についてアセスメントし解決方法を考えられた学生もいた。しかし、生活や環境を考慮した計画立案の重要性の気づきにとどまる学生もいたことから、学修目標の「育成期にある子どもと家族に必要な看護を多角的に捉える」ことの達成には課題が残ると考える。

今回、学生はオンライン訪問で対象者と接することによって初めて【対象者のリアルな生活を知り対象理解が深まる】経験をしており、オンライン訪問での対象者との関わりの中で【状況に応じて計画をタイムリーに評価・修正する重要性を学ぶ】ことや【対象者のニーズに沿った情報提供の重要性を学ぶ】経験をしていた。道田が抽出した6つの批判的思考教育を行う観点<sup>15)</sup>をもとに検討すると、「複数視点系」の活動であるオンライン訪問前のグループディスカッションにより、自分と違う多様な視点を得ることはできたと考えるが、乳幼児を育てる母親の生活のイメージが乏しくその視点には限界があったと考える。加えて、今回オンライン訪問前に学生に提示した情報は限られた基本情報のみであり、オンライン訪問前の情報収集の機会や時間が不足していたことも要因の1つであると考え。また、30分かつ1回のみでのオンライン訪問では、「評価・判断系」や「練り直し系」の活動である。再度自分のアセスメントや看護計画を吟味し再検討することは十分に実施できなかつたと推察される。しかし、ICTの活用は生活に即したタイムリーな指導や支援に役立つ<sup>16)</sup>ことが明らかにされており、今回のオンライン訪問においても、「訪問後に対象者のニーズに合ったパンフレットを提供できてよかった」とあるように、対面ではなくオンラインでの訪問実習であったからこそ、対象者のニーズに沿った情報をオンライン訪問当日に迅速に提供できた点は、実習においても実践においても利点があると考え。

2021年に定められた成育医療等の提供に関する施策の総合的な推進に関する基本的な方針<sup>17)</sup>において、母子保健におけるICTの活用について述べられており、母子保健におけるオンラインの活用は今後必須となると考えられる。今回、初めてオンライン訪問実習に取り組んだ結果、学生は「オンラインを活用した実践の可能性に気づく」経験をしていた。学修効果の検討を通して、

オンラインであっても対象者との信頼関係形成に必要なコミュニケーションの展開を実施でき、タイムリーな指導や支援において有効であることが示唆された。しかし、オンラインと対面での言語的、非言語的コミュニケーションの違いを理解・確認するためには、事前のトレーニングが必要であったことを考慮すると、卒後のトレーニングにも活用できると考える。

今後の課題は、オンライン訪問実習という実習方法の中で情報収集方法、同一対象への複数回のオンライン訪問実習による計画の変更体験等、実習方法について更なる検討を重ねることである。加えて、新型コロナウイルス感染症の影響が継続していることにより、今後は対面実習を経験していない学生がオンライン実習を行うことが想定される。そのため、学生のレディネスに応じた実習方法の検討が必要と考える。

## 6. 結 論

乳幼児を育てる母親を対象としたオンライン訪問実習において、学修目標「育成期にある子どもと家族のエンパワメントのために必要な看護実践ができる」と「今後の看護の質向上に向けて効果的な看護実践を行うための方略を考察できる」については、高い学修効果が得られた。「育成期にある子どもと家族に必要な看護を多角的に捉える」については、学修効果を上げるための実習方法改善の必要性が示唆された。

謝辞：本研究にご協力をいただいた学生および助産師の皆様にご挨拶いたします。

【COI開示】本論文に関して開示すべきCOI状態はない

## 文 献

- 1) 中央教育審議会：新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～（答申）。2012-8-28. [https://www.mext.go.jp/component/b\\_menu/shingi/toushin/\\_icsFiles/afieldfile/2012/11/04/1325048\\_1.pdf](https://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afieldfile/2012/11/04/1325048_1.pdf), (参照 2022-12-2).
- 2) 文部科学省：新型コロナウイルス感染症下における看護系大学の臨地実習の在り方に関する有識者会議報告書。2021-6-8. [https://www.nurse.or.jp/nursing/practice/covid\\_19/faculty/pdf/report\\_uniforcovid19.pdf](https://www.nurse.or.jp/nursing/practice/covid_19/faculty/pdf/report_uniforcovid19.pdf), (参照 2022-9-1).
- 3) 坪井桂子, 石橋信江, 秋定真有, 西村康子：オンラインの特性を活かした老年看護学実習。看護教育 61(10)：940—947, 2020.
- 4) 細川隆也, 平和也, 塩見美抄：京都大学におけるCOVID-19流行下の保健師過程教育実習①—オンライン代替実習の実践報告。保健師ジャーナル 76(10)：848—852, 2020.
- 5) 塩見美抄, 細川隆也, 平和也：京都大学におけるCOVID-19流行下の保健師過程教育実習②—オンライン代替実習の成果と課題。保健師ジャーナル 76(11)：922—925, 2020.
- 6) 相撲佐希子, 春田佳代, 諏訪美栄子, 他：劇団員模擬患者を活用したリアリティある実習への挑戦。看護教育 62

- (1) : 56—61, 2021.
- 7) 長 聡子, 西村春香: 認知症高齢者グループホーム実習をオンラインで補完した看護教員の試みとオンライン実習を通して得られた課題. *インターナショナル Nursing care research* 19 (4) : 31—41, 2020.
- 8) 川俣沙織: 利用者さん, 教育機関との信頼関係で実現した現場をつなぐオンライン実習. *看護教育* 61 (11) : 1014—1025, 2020.
- 9) 厚生労働省: 看護基礎教育検討会報告書. 2020-10-15. <https://www.mhlw.go.jp/content/10805000/000557411.pdf>. (参照 2022-9-1).
- 10) 厚生労働省: 第11回第8次医療計画等に関する検討会参考資料4第8次医療計画に向けて(周産期医療). 2022-7-27. <https://www.mhlw.go.jp/content/10800000/000969579.pdf>. (参照 2022-9-1).
- 11) 一般社団法人日本看護系大学協議会: 看護学士課程教育におけるコアコンピテンシーと卒業時到達目標. 2018-6. <https://doi.org/10.32283/rep.5618b431>. (参照 2022-9-1).
- 12) 厚生労働省: 看護基礎教育検討会報告書. 2019-10-15. <https://www.mhlw.go.jp/content/10805000/000557411.pdf>. (参照 2022-12-2).
- 13) 安梅勅江: エンパワメントのケア科学 当事者主体チームワーク・ケアの技法. 東京, 医歯薬出版, 2004, pp 5.
- 14) 前村叶基: オンライン診療でどのように信頼関係を築くか. *CBEL Report* 3 (1) : 69—75, 2020.
- 15) 道田泰司: 叡智としての批判的思考—その概念と育成—. *心理学評論* 61 (3) : 231—250, 2018.
- 16) 井上寛子, 薬師神裕子: ICTを活用した1型糖尿病をもつ子どもへの継続支援の効果. *日本小児看護学会誌* 27 : 97—105, 2018.
- 17) 厚生労働省: 成育医療等の提供に関する施策の総合的な推進に関する基本的な方針. 2021-2-9. <https://www.mhlw.go.jp/content/000735844.pdf>. (参照 2022-9-1).

別刷請求先 〒734-8553 広島県広島市南区霞 1—2—3  
 広島大学大学院医系科学研究科  
 藤本紗央里

**Reprint request:**

Saori Fujimoto  
 Graduate School of Biomedical and Health Sciences, Hiroshima University, 1-2-3, Kasumi, Minami-ku, Hiroshima, 734-8553, Japan

## Learning Outcomes from Online Maternal Nursing Visits During the COVID-19 Pandemic for Nursing Students: Advantages and Limitations of Online Consultation

Saori Fujimoto, Hiromi Kawasaki, Mari Murakami and Yoko Ueno  
 Graduate School of Biomedical and Health Sciences, Hiroshima University

**【Objective】** This study aimed to examine the learning outcomes from online maternal nursing visits during the COVID-19 pandemic and to explore the advantages and limitations of online consultation for maternal and child healthcare.

**【Methods】** An online consultation visit was conducted by nine fourth-year students in June 2020. Each group consisted of three students, and one participant was assigned to each group. The participants were three mothers who were all midwives themselves. The analysis was based on the self-evaluation scores and learning outcomes of the nine students. The evaluation included 12 items. The self-evaluation scores ranged from 4–1, where 4 = “Students can conduct further visits independently with some advice” and 1 = “Students can’t conduct further visits independently even with advice.” A univariate statistical analysis was performed, and learning outcomes were qualitatively analyzed.

**【Results】** The items with the highest mean (standard deviation) scores were “advocates for dignity and the rights of mothers” (3.89 [0.31]) and “communication needed to create a trusting relationship” (3.89 [0.31]). Twelve categories of students’ learnings were obtained.

**【Conclusion】** The items with high learning outcomes were nursing practices necessary for empowerment and students’ consideration of effective nursing practice strategies to improve their future nursing care quality. Given that necessary nursing care is multifaceted, the results of the study suggest that there is a need to improve practical training methods to increase the effectiveness of learning for nursing students. The results also suggest that the use of online systems is effective in providing timely consultation support. Furthermore, the results suggest that prior training enabled the development of communication skills in an online setup.

(JJOMT, 71: 55—60, 2023)

—Key words—

online nursing visits, online consultation, COVID-19 pandemic